

はなの輪

広島市植物公園植物友の会

2024年7月-9月 通巻第180号



園長のおすすめ 2023年7月15日号より

ブルーベリー *Vaccinium* spp.

春にドウダンツツジに似た釣鐘状の花を咲かせる栽培ブルーベリー（ツツジ科スノキ属）は、品種によりますが、6月から8月まで実を楽しめます。

栽培される主な系統には、ラビットアイ系①とハイブッシュ系があり、ハイブッシュ系はノーザン・ハイブッシュ、サザン・ハイブッシュ②、ハーフ・ハイブッシュに細分されますが、広島市内なら①②の系統がおすすめです。

同じ系統から2品種以上植えることで実付きが良くなります。ハイブッシュ系は土壌酸度を調整してからの植付けが基本です。ラビットアイ系は、果色が熟す途中でピンクになります（ウサギの目）。

（園内位置：花の進化園・ツツジシャクナゲ園） [写真・文 永井 親雄]

園長のおすすめ

植物公園ホームページでは、園長のおすすめを定期連載中です。

見ごろの植物や最新のイベント情報も掲載しています。



<http://www.hiroshima-bot.jp/tomonokai/>

ウチョウラン (*Ponerorchis graminifolia* Rechb.f.) は日本の本州、四国、九州に産し、朝鮮半島にも分布があるとされる小型の地生ランで、塊根を形成する球根植物です。環境省レッドリストで絶滅危惧II類に指定されている絶滅危惧種ですが、無菌播種による増殖技術が確立され、品種にもよりますが球根での増殖が容易です。広い栽培スペースを必要としないため、栽培に挑戦しやすい植物の一つといえるでしょう。その愛らしい姿から山野草の一つとして日本国内では人気が高く、多くの愛好者が栽培しています。広島市植物公園では展示会を広島ウチョウラン保存会と共催し、今年は6月15日~20日にかけて開催しました。

ウチョウランは6月頃に開花するのが一般的ですが、どのようなリズムで一年を過ごしているのか、大量に増殖した球根（5月下旬から開花する早生の系統）を使って広島県立大学（現在の県立広島大学）と共同で調査したことがあります。その結果を短くまとめてご紹介します。

調査に使ったウチョウランは、開花盛期~終期の6月中旬に新しい球根を作り始め、地上部がほぼ枯れた9月頃まで球根の肥大を続けました。球根の先端にある芽の中に、翌年の花を作りますが、早いものでは9月中旬から、遅いものでは12月頃から花の元になるもの（花芽）ができ始め、10月から1月の間に複数の小さな花（小花）が重なったもの（花序原器）の形成が確認できました。3月から芽の伸長や発根が始まり、4月になるとそれぞれの小花に苞葉が確認できるようになり、5月上旬には、小花の数を増やしながらかつ徐々に葉の間から花（花序）をのぞかし始め、5月下旬から開花を始めました。

ウチョウランに限らず、植物の一年間の生活のリズム（生活環）を知ることは、植え替えの適期や、樹木の場合には剪定の適期などを推定する重要な情報となります。性質の揃った多くの材料を用意する必要があり、地道な作業を続けることとなりますが、興味深い研究テーマの一つです。



写真 ウチョウラン
（調査に使った品種ではありません）

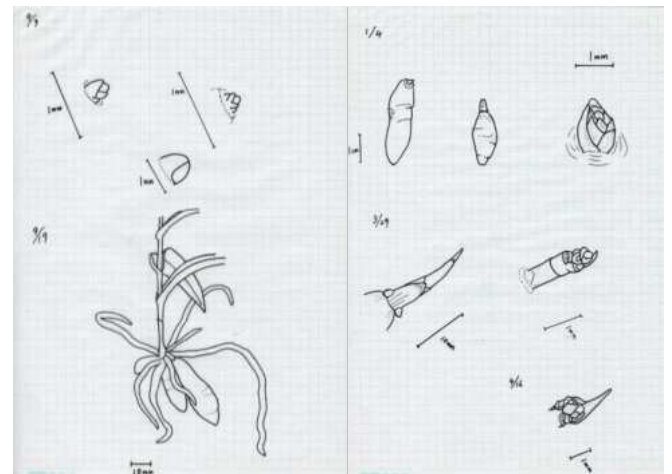


図 一連のスケッチ

参考資料

Shuichi Hamatani and Yoshiyuki Niimi 2005. The Differentiation and the Development of Flower Buds during the Life Cycle of *Ponerorchis graminifolia*. Acta Hort. 673: 361-367.

2024年7月～9月 展示会・イベント案内

7/20 (土)
～ 9/1 (日)

サマーフェア (水遊び広場)

天然芝で水遊びを楽しむことができます。
(期間中の開園日は毎日開催。各回10分、荒天中止)

時間：10:30、11:00、11:30、13:30、14:00、14:30

夏休みワクワク植物ミニ体験 (各回先着30名)

7/21 (日)	各日 11時 ～	ハーブの水さし栽培	展示資料館
8/4 (日)		食虫植物のお話	
8/10 (土)		巨大ペゴニアの剪定とさし木	ペゴニア温室
8/17 (土)		バケツでミニスイレンとメダカを一緒に育てよう	展示資料館

7/20 (土)
～ 9/1 (日)

ヒマワリ ウィーク

森のレストラン前花壇に、約1,400株のヒマワリ
(品種名：サンフィニティ) が咲き誇る「ヒマワリ
の丘」が今年も登場！夏の記念撮影にどうぞ。

9/7,14,15
(土) (土) (日)
21,22
(土) (日祝)

夜間開園

(サガリバナと夜の植物の競演)

5日間限定で夜9時まで開園時間を延長します。
サガリバナやツキミソウ、ヨルガオなどの夜咲
く花・夜香る花の競演をお楽しみいただけます。

展示会のご案内

展示会の内容は、一部変更になる場合があります。
最新情報はホームページ・電話等でご確認ください。

私の好きな花たちの写真展	共催：新田写真教室	6/15～ 7/15	展示資料館
ビカクシダとカラフルリーフ展	ギャラリートーク 7/6 13:30～	6/29～ 7/15	展示温室
盛夏のスイレン展		7/13～ 9/23	大テント前 など
夏のオープンスペース 植物であそぼう 【木のおもちゃで遊ぼう！8/10～15 講堂】		7/20～ 9/ 1	展示資料館
世界の食虫植物展	協力：広島食虫植物同好会	7/20～ 8/18	展示温室
変化朝顔展	協力：広島あさがお研究会	8/24～ 9/ 1	展示温室
薬用植物展	薬用植物展解説 9/23 13:30～	9/ 7～10/ 6	展示温室
特別企画展「人の暮らしを支える植物と油展」		9/14～12/22	展示資料館

第48回広島市植物公園植物写真コンテスト

募集期間 9月1日(日)～11月30日(土)

植物公園の植物や園内風景を題材として、写真コンテストを実施します。応募は1人5点まで。
デジタルカメラの写真も応募できます。詳細はチラシをご覧ください。

Event Information 2024 7-9

植物園で開催されるイベントを紹介します

7月

草笛体験会

7月7日(日) 午後1時～3時

園内散策 (先着40名程度)

～広島の絶滅危惧植物～

7月13日(土) 午前11時～

みどりむし講座 (先着100名程度)

「カブトムシとクワガタムシ」

7月28日(日) 午前11時～正午

食虫植物実演会 (先着100名程度)

7月28日(日) 午後1時半～2時半

* イベントの内容は、一部変更になる場合があります。最新情報はホームページ・電話等でご確認ください。



植物うんちく語り
年間スケジュール

8月

草笛体験会

8月4日(日) 午後1時～3時

虫よけの話と除虫菊で線香づくり体験 (先着30名)

8月19日(月) 午前10時～11時半

変化朝顔展解説 (先着100名程度)

8月25日(日) 午前10時～11時

変化朝顔展講演会 (先着50名)

8月27日(火) 午前10時～11時半

9月

草笛体験会

9月1日(日) 午後1時～3時

- * 毎週土・日曜日・祝日 午後1時半～3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内しています
- * 7/7, 7/23, 8/3, 8/20, 9/7, 9/24 各日午前11時～ 職員による植物うんちく語りを実施します
- * 7/7(日), 9/8(日) 各日午後1時20分～3時 植物友の会例会を実施します(要入会、年会費無料)

申込制のイベント

※往復ハガキに催し名・住所・氏名・電話番号(・希望日)を記入してお申込みください。
オオオニバス試乗体験会を除き、植物公園ホームページからもお申込みいただけます。

催し名・日程	内容等	定員	締切	申込QR
親子植物体験教室 (昼休憩あり) 7月27日(土) 午前10時半～午後2時	植物観察や花育体験(フラワーアレンジメント)を行います。 参加費: 1,000円 対象: 小学1～3年生とその保護者	20名 (抽選)	7月8日 【必着】	
オオオニバス試乗体験会 8月8日(木)、11日(日・祝) 13日(火)、15日(木) 午前9時半～正午、午後1時～3時半	直径1m以上になるオオオニバスの葉に乗る体験会。 対象: 体重30kgまでの子ども 備考: 希望日を第2希望まで記入	各日 300名 (抽選)	7月22日 【必着】	往復ハガキのみの受付
多肉植物寄植ワークショップ 10月12日(土) 午前10時半～正午	エケベリアなど多肉植物の寄せ植えについて講習を行います。 参加費: 3,500円	20名 (抽選)	9月19日 【必着】	
先生と子供のための森の幼稚園 (雨天決行) 10月13日(日) 午後1時半～3時	カエデの葉の観察やどんぐり拾い。 参加費: 1人当たり100円 対象: 年中・年長の子どもと保護者 幼稚園等の教員	25名 (抽選)	9月24日 【必着】	

油になる植物 Oil Plant



ヒマワリ (ひまわり油)



ワタ (綿実油)



アブラヤシ (パーム油)

今年度の特別企画展として、9/14~12/22の会期で「人の暮らしを支える植物と油展」を開催します。豆知識ですが、国内に供給される植物油のベスト3 (2023年) は、菜種油 (869千トン)、パーム油 (671千トン)、大豆油 (497千トン) になるそうです。[参考 (一社) 日本植物油協会HP]

夜に咲く花、香る花 Fragrant Night-Blooming Flowers



サガリバナ



イエライシャン



オオオニバス (1日目の花)



夜開性スイレン 'アンタレス'



ツキミソウ



ヨルガオ

毎年9月中旬 (今年は9/7、14、15、21、22の5日間) には、夜に咲く植物の観賞を目的とした夜間開園を実施しています。写真の植物の花は全て夜咲きで、夜行性の昆虫やコウモリなどに花粉を運んでもらうために匂い (臭い) を放つなど、様々な工夫が見られます。

7月～9月に見ごろを迎える植物



6月～10月

デュランタ 'タカラヅカ'
(カスケード)



7月中旬

アガパンサス イナペルタス
(花の進化園)



7月～8月中旬

ハス
(花の進化園)



7月

ラッカセイ
(花の進化園)



初夏～夏頃

カカオ
(大温室)



6月～7月中旬

ソーセージノキ
(大温室)



9月

注：夜咲きの1日花のため、夜間開園時に観賞
できないこともあります

ドラゴンフルーツ
(サポテン温室)



7月～9月

スタペリア 王犀角
(サポテン温室)



8月～9月

スズムシバナ
(ロックガーデン)



7月～9月

タイワンシュウメイギク
(ロックガーデン)



7月下旬～
8月上旬

センノウ
(里山の野草園)



7月中旬～8月

ヒマワリ 'サンフィニティ'
(レストラン前花壇)

夏の暑さニモマケズ、元気に花を咲かせていますが、花の形や色は千差万別です。子孫を多く残すための工夫ですが、よく観察するといろいろな発見があります。例えば、スタペリアのなかまは、肉が腐ったような臭いを出し、ハエの仲間を呼び寄せます。また、ドラゴンフルーツとソーセージノキは夜咲きです。 [写真・文：久保 晴盛]

Plant Doctor Q&A

植物公園では、緑の相談窓口を設置しています。
家庭園芸のお困りごと、何でもご相談ください。
[☎082-922-3600 金曜を除く午後1時～4時]

Q. ゼラニウムとペラルゴニウムの違いは何ですか？

A. フウロソウ科ペラルゴニウム属の特定の品種群を園芸的に「ゼラニウム」、「ペラルゴニウム」と呼んでいます。ゼラニウムは野生種のゾナーレ種 (*Pelargonium zonale*) とインクイナンス種 (*P. inquinans*) を主な交配親として作出された群で、ペラルゴニウムは野生種のククラツム種 (*P. cucullatum*) とグランディフロラム種 (*P. grandiflorum*) を主な交配親として作出された群です。

ゼラニウムは「四季咲き」の性質があり、一定の気温 (15°C程度以上) であれば、周年開花可能です。ペラルゴニウムは1年に1回だけ花を咲かせる「一季咲き」の性質があり、冬の低温 (霜に当たらない程度) の環境下に置いた後に開花します。ゼラニウムの和名は「テンジクアオイ」ですが、ペラルゴニウムの和名は春から夏にかけてしか花を咲かさなないことから「ナツテンジクアオイ」と呼ばれています。また、栽培管理の上では、ゼラニウムは過湿に弱いですが、ペラルゴニウムはゼラニウム程弱くはないという違いがあります。これらの特徴とおうちの環境を比べて、よりよい方を栽培してみてください。

[文 田中 宏昌]

Q. 家で育てているサツキの花つきが悪くなってきました。どうしたらいいのでしょうか？

A. 原因として、害虫による食害、剪定時期の誤り、日当たりが悪い、夏の水切れなどが考えられます。

害虫については、ピンク色と緑色の羽を持つベニモンアオリンガの幼虫 (茶褐色) が、4月～6月に新芽を、9月～10月に蕾の内部を食害します。オルトラン液剤・水和剤、チューリサイド水和剤などの散布が効果的ですが、蕾の中に入った幼虫には効果が薄いので、気をつけてください。

剪定については、花後できるだけ早く行ってください。というのも、サツキは旧枝咲きで、開花後梅雨明け頃に翌年咲く花芽を枝先に作ります。したがって、サツキは他の植物に比べて剪定の適期が短いという特徴があります。夏や秋頃に枝が伸びてしまったから

と先端を刈り込んでしまうと、花芽も飛ばすことになってしまうので、ご注意ください。また、株の体力を温存させ、翌年の花付きをよくするために、花がらを早めに摘んで実を付けさせないことも大切です。

[文 堀川 大輔]

Q. 根腐れ防止剤として、「珪酸塩白土」と「ゼオライト」をよく見かけますが、どういうものですか？

A. 珪酸塩白土は秋田県の特定の地域で採掘される白い粘土です。ゼオライトは別名「沸石」とも呼ばれる鉱物で、石見地方や伊勢地方など、複数産地があります。これらは土壤に混ぜたり、水耕栽培の溶液に入れたりすると、根からの老廃物を吸着したりミネラル分を吸着放出したりと、根の健康を保つのによい働きをされると言われています。それぞれ水につけてかき混ぜると、ゼオライトは形が崩れませんが、珪酸塩白土は崩れて、小さくなります (写真)。これらを土壤に適量混ぜることにより、ゼオライトはある程度の大きさの粒であるため物理的に排水性を良くしますし、珪酸塩白土は土の団粒化を促進して土壤の排水、保水性を改善します。



写真 上段左からゼオライト、珪酸塩白土大粒、珪酸塩白土小粒。下段は、水につけ、かき混ぜ、1時間放置した状態

[写真・文 井上 尚子]



バラ園のフェンス

バラ園の景色が昨年からガラッと変化したことにお気づきでしょうか？景色が変わったのは、バラ園の西側に白いフェンスが新設されたからです。

以前、バラ園の西側にはカイヅカイブキやヒマラヤスギの生垣がありました。しかし、生垣植栽後の数十年の間に大きく育ちすぎ、ドーム状に盛り上がった樹冠はバラ園の日照を妨げ、張り出した根はバラ植栽区画の養分や水分を奪っていました。バラ園の背景が生垣のグリーンとなるため景観は悪くなく、これでは、という意見もありましたが、特に生垣に近接したバラの生育が劣っているのは明らかでした。しかし、生垣を伐採してしまうと、バラ園からは観音台方面の住宅街が丸見えになってしまうので、生垣の代わりとなる目隠しが新たに必要となります。

一方、当園の植栽は木立性バラが中心で、立体演出が可能なるバラは少ない状況にあり、バラ園全体が平面的で単調に見えるという、景観上の問題がありました。そこで、目隠しとつるバラの立体演出の両方の役割を果たすフェンスを設置する案が浮上しました。

開園50周年が近づき、2025年に世界バラ会議福山大会が開催されるのに合わせて、当園のバラ園もリニューアルしようという機運が高まり、フェンス設置工事の施工が決まりました。

近年、住宅の外構で採用されるフェンスの色は、ウッド調やアースカラーが流行なのですが、バラ園東側の既設のメッシュフェンスや中央のアーチが白色であることや、幾何学式庭園であることから、それらにマッチする白色のフェンスを設置することにしました。

令和5年3月に生垣の伐採とフェンス設置が完了しました。フェンス周りの土壌改良を終えた令和6年3月に念願のつるバラを植栽し、6月現在は元気に成長しています。



写真1 生垣があった頃のバラ園（2020年5月）



写真2 フェンス新設後のバラ園（2024年5月）



写真3 2024年3月に定植したつるバラ（2024年5月）

[写真・文 泉川 康博]



広島市佐伯区倉重三丁目495

☎ 082-922-3600 📠 FAX 082-923-6100

- 開園時間 午前9時～午後4時半（入園は4時まで）
- 休園日 毎週金曜日
- 入園料 大人510円、高校生および65歳以上170円、中学生以下無料
- 駐車料 軽・普通自動車450円、中・大型車1,400円

